

記録を集める

四国の各地では河川、道路、鉄道、港湾などさまざまな分野で社会資本整備が行われてきました。私たちが生活している基盤は、先人が長年にわたって努力、工夫して築いてくれた土台の上に成り立っています。先人が築いてきた四国の社会資本に関する記録を整理、保存して、インターネットを通じて多くの人に利用していただくために情報提供することが、四国社会資本アーカイブスの役割です。

作業の第一歩は資料収集です。開示第一弾では、明治以降の直轄の河川と道路を対象としていますので、事業主体である国土交通省などのご協力をいただいて資料収集するとともに、四国のすべての公立図書館を訪れて資料収集を行いました。

記録の中で中心となるのは、事業主体が作成した工事史・事業誌・記念誌です。記述の方法は資料ごとに異なりますが、直轄の河川や道路について事業の経緯・経過、事業の内容、事業後の効果等が記されおり、概要を把握することができます。資料によっては、座談会の記録が掲載されていることがあります。事業を担当した方々が当時を振り返って体験したことや見聞きしたことを語り合った記録です。本文の公式の記録に書かれていないことを知ることができますので、事業についてより詳しく知る時に役立つ情報です。

また、記念誌が10年史、20年史、30年史のように、定期的に作成されていることがあります。10年史に新たな情報を追加して20年史を作成するという作り方をしている場合もありますが、事業の進捗や事業を取り巻く環境の変化等により全く内容が異なる場合もありますので、特定の事業について定期的に作成されてきた記念誌の記述内容の変化を見ることも興味深いことです。ただし、1990年代半ば頃から多くの事業主体の工事誌・事業誌・記念誌が作成されなくなりましたので、社会資本の記録をつなぎ合わせることに困難になりました。

そこで、工事史・事業誌・記念誌で把握することができない内容は、事業主体が毎年度に作成している事業概要等で確認することにしました。事業概要は事業主体が当該年度に行う予定の事業の概要を示したもので、過去の記録を整理したものではありませんが、おおむね事業の動向を把握することができます。事業概要の中には、記録を残すことよりも、住民への説明や事業効果をPRすることに重点を置いたものもありますが、事業評価監視委員会資料等の他の資料をも参考にして、できるだけ事業の記録をつなぎ合わせるために活用してきました。

直轄の河川・道路事業に関する記録は、県史、市町村史、郷土史等にも掲載されています。ここでは、事業への地域の関わり、地域の支援・協力の内容、地域から見た事業の評価等の情報を得ることができます。これは、事業主体の工事史・事業誌等からは得ることができない情報です。四国社会資本アーカイブスで提供する直轄の河川・道路事業に関する情報は、事業主体側からだけでなく、地域側からも把握することが重要だと考えていますので、県史、市町村史、郷土史等の収集も行ってきました。

できるだけ資料収集に努力してきましたが、皆様のご存じの資料で、四国社会資本アーカイブスには使われていないのでは、などとお気づきの点がありましたら事務局にご連絡いただけましたら幸いです。